



普通科1年 SDGs フィールドワーク

エンジニアリングコース

7月12日（金）は普通科1年生を対象にSDGsフィールドワークエンジニアリングコースが実施されました。富士シリシア、東郷メディキット、旭有機材の3社に直接訪問し、企業の研究や設備を見させていただきました。

（1年1組は9月に実施）

地元の企業について知ることができる非常に貴重な機会となったと思います。延岡高校SSH事業は地元の多くの企業や大学と連携して科学技術人材の育成に取り組んでいます。



2年普通科対象 SDGs 課題研究のコーチの方々の紹介の場面

2年 SDGs・STI 課題研究

2年生は各班が決めたテーマについて1年間研究を行っています。どの班も答えのない問いについて、班内で意見交換を行いながら、色々な方法で研究しています。しかしその中で分からないところ、悩む場面が出てきます。そんなときにも安心してください。本校にはコーチ・メンターが君たちの研究をサポートして下さります。今年度はコーチ・メンターの情報交換を行う機会が多く設定してあります。色々助言をいただき、君たちなりの答えを見つけていきましょう。



2年MS科対象 STI 課題研究のメンターの方々との意見交換の場面

SSH 成果発表会

7月16日（火）の午前中に3年生が3年間取り組んだ課題研究の集大成として、全員が英語でポスター発表をしました。本校の運営指導委員や宮崎大学の留学生、他校の教育関係者など多くの方々が来場して下さり、多くの方々がみられている中で素晴らしい発表をしていました。

SSH事業が目指す「国際的に活躍できる科学技術人材」の第一歩を踏み出しており、この課題研究で身に着けたこと・学んだことをこれからの大学生活に活かしていってもらえると嬉しいです。頑張れ3年生。



3年生課題研究プレゼンテーション ポスター発表の様子

編集後記

(関係者のみ配布、学校公式サイトは非掲載)

延岡高校はSSH I 期に指定され5年目となりました。本校のSSH事業ではプレ課題研究やFWなど様々な課題研究が行われています。ではなぜそのような学習を行う必要があるのでしょうか。それは「未知の課題に対応するには自分で考える人が大切だから」といわれています。

今後AIが台頭したり、デジタル化やグローバル化がますます進んだり、様々な変化が予想されます。変化することでこれまで「正解」とされていたものが変わる可能性さえあります。そういう状況の中で自分なりに考えて、自分なりに問題を見つけ、自分なりの答えを見出すことが大切になってきます

探究的な学習とは「生徒自身が自分で問題を設定し、その問題を解決するために情報を収集・分析し、意見を交換したり協働したりしながら進める学習活動のこと」といわれています。そのために以下のことが必要になってくるのではないのでしょうか。

①自分なりに問いを立てる

生徒が探究しているといえるためには、自分で問いを立てることが不可欠です。逆に言えば、先生や人から与えられた問いは、探究学習の問いとはいえません。自分なりに課題を見つけて、課題設定をして初めて探究学習の一步となります。

②情報を集めて分析する

自分の問いに答えようとするためには、情報を集めて分析することが必要です。ただ単に問いを立てるのが探究学習ではありません。自分の立てた問いに対して答えようとする活動が探究学習です。探究学習では立てた問いに答えるための情報を集めて分析をします。

③発表する

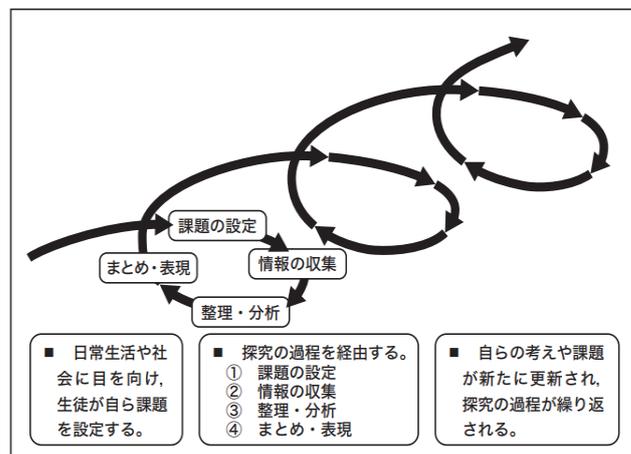
探究の最後に行うべきなのは発表することです。もしアウトプットがなければせっかくのインプットも消化不良で終わる可能性があります。これまでの学びが実りあるものにしたがり、学びに区切りをつけるためにも発表する機会が大切です。

以上の流れを文部科学省の学習指導要領解説では以下のように定義しています。

- ① 【課題の設定】 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ② 【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③ 【整理・分析】 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④ 【まとめ・表現】 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説。総合的な探究の時間編 123p

探究における生徒の学習の姿



延岡高校に入学してきた生徒が3年間のSSH事業を通して身に付けた様々な知識・技能・考え方が、高校卒業後の大学生活やその先に意味のあるものになるように、今後ともより充実させていきたいと考えています。君たちもこの課題研究を楽しんで取り組んでいてもらいたいです。